

2018WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 9 (7/27)

大会3日目。午後の荒天の気象情報からFISAが判断をし、午前中のレースは1時間早めたスケジュールで進められた。昨日のFISAからのアナウンスがスムーズに行き渡っており、全く問題なく変更スケジュールでレースが進められた。

この日のトップバッターはBW2xクルーの敗者復活。その後BM2xの敗者復活、BLM1xの準々決勝となります。

トレーニングクルー



早朝の日差しの中トレーニングに向かう各クルー。BLM4x(左上)、スペアレースBLW1x(右上)、BW2-(左下)、BLW4x(右下)

9:00 BW2x 敗者復活

スタートからニュージーランドが少し前に出ながら、準決勝A/B進出ラインである2位を日本、スイス、アメリカが争う展開。日本は僅かの差で500mを2位で通過するも、2～4位が横一線の状態。第2クォーターに入ると日本とアメリカが1歩も譲らずに、少しずつスイスを引き離す。1位ニュージーランド、少し遅れて2位日本、3位アメリカが並ぶように、そこから僅かに遅れる形で4位スイスが通過。5位ノルウェーはここで2位争いから一歩後退する。第3クォーター、ここまで4位に着けていたスイスが艇速を伸ばしアメリカと日本をかわし2位に浮上。アメリカはここで力尽き大きく後退。日本とスイスの2位をかけた一騎打ちとなり第4クォーターを迎えた。日本はストロークの米川選手が思い切りギアチェンジしバウ中条選手がそれにこたえるようにリズムを上げスイスに挑む。しかし、スイスもそれにこたえるように艇速を上げ応戦。息詰まるデッドヒート、ラスト100mでもう一度日本がギアチェンジし艇速がさらに上がるが僅かに及ばず3位でゴール。この日の午後に行われる準決勝C/Dに進むことになった。



笑顔で出艇するS米川選手
(早稲田大学)とB中条選手
(DENSO)



スイス(写真手前)と壮絶な2
位争いを繰り広げるBW2xク
ルー。
写真左からS米川選手(早稲
田大学)、B中条選手
(DENSO)

9:15 BM2x 敗者復活

2位までが準決勝A/Bに進める中、スタートからフランスが一気に飛び出し、日本、ノルウェー、ルーマニアが激しく2位争いを繰り広げる展開でレースがはじまった。日本はストローク櫻間選手(同志社大学)、バウ木村選手(日本大学)の大きく力強いドライブで1本1本艇を進めている。我慢比べの状況から第2クォーターでノルウェーが遅れ始め、日本とルーマニアの2位争いになった。第3クォーター、日本の勢いがさらに増しルーマニアを突き放しにかかる。一気に離れることはなかったが、ルーマニアとの差をじりじりと引き離しはじめ1500mでは3.26秒差をつけ、準決勝A/Bを大きく手繰り寄せる。ラストクォーター、ルーマニア、そしてさらに遅れるノルウェーが必死に追いつけようとするが、日本は寄せ付けず2位をキープ。1位フランスに続き2位でゴールし見事男子オープンカテゴリーでの準決勝A/B進出を決めた。



2018 WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS		
REPECHAGE 2 - BM2X		SPEED (MIN)
1	NOR	16.4
2	ROU	16.8
3	FRA	17.0
4	JPN	17.1
5	USA	16.1

POZNAN, POLAND

↑会場の大型ビジョンで日本がルーマニアと2位争いをしている様子が知らされる。

1750m地点を力漕するBM2xクルー。
写真左から櫻間選手(同志社大学)、
木村選手(日本大学)→



9:30 BLM1x- 準々決勝

スタートからチュニジアとイタリアが飛び出し、日本とブラジルが追う展開に。3位までが準決勝A/Bに進出できるため、必然的に3位争いが熾烈になる。スプリントで勝る相手に気持ちのこもったローイングで食らいつく日本。500mを1位チュニジアと2.6秒差、3位ブラジルとはほぼ並ぶようにして0.26秒差で通過。第2クォーターに入りしばらくは粘るが少しずつ3位ブラジルとの差が開き始める。1000mでは3位ブラジルとは2.36秒差。まだ射程圏内に捉えているが少し苦しい展開になってきた。第3クォーターに入ると3位争いを繰り広げていたブラジルの艇速がさらに上がりチュニジア、イタリアをかわし首位に躍り出た。日本はここで離されてしまう。ラストクォーターも力の限り追い上げるも3位に落ちたチュニジアには届かず、惜しくも4位でゴール。午後の準決勝C/Dに回るようになった。



必死のラストスパートをかける伊藤選手(早稲田大学)

13:20 BW2x 準決勝C/D

午前中の敗者復活の熱いレースから4時間余りでの本日2本目のレース。しかし、日の丸を背負ってレースに挑む日本の2人は疲労をものともせずスタートから攻め通し、500mを1位で通過。第2クォーターに入ってもそのままの勢いでレースを引っ張るが、アメリカとデンマークが意地を見せ並びかけてきた。日本、アメリカ、デンマークがほぼ横一線のまま1000mを通過。A決勝への望みは絶たれても代表としてベストを尽くし合う素晴らしいレースとなった。1500mでは僅かの差ながら1位アメリカ、2位日本、3位デンマークで通過。3位までがC決勝に進む中、4位オーストリアが約3秒遅れでついてくる難しい展開。ラストクォーターに入り4位オーストリアが猛追を仕掛け、それに各国が反応し合う展開になった。その中で一気に艇速を上げたのがデンマークでそのまま首位に立ち、日本とアメリカがデッドヒートを繰り広げながらオーストリアの猛追をかわすかと思われた1750m地点で、アメリカにミスオールがあり艇がストップ。3位にオーストリアが浮上。日本はデンマークに続き2位でゴール。ハードなレースを2本こなし切り、意地を見せc決勝に駒を進めた。



大混戦の中ラストスパートを仕掛けるBW2xクルー。
写真左からS米川選手（早稲田大学）、B中条選手（DENSO）

13:40 BLM1x 準決勝C/D

BW2xに続き本日2本目のレースとなったが、香港が飛び出し、あとは横一線の状態で500mを通過。第2クォーターに入ると徐々に香港の勢いが落ち、アメリカ、日本、エストニア、ポルトガルと横一線になり1000mを通過。3位までがC決勝に進めるが、こちらも厳しいレース展開となった。第3クォーターでも横一線が続くが少しずつエストニアとポルトガルが前に出て、香港が後退し始めた。日本は通過ラインの3位をキープしたまま4位アメリカと並ぶようにして1500mを通過。ラストクォーターは当然壮絶なスパートの掛け合いとなったが、その中を日本はかいくぐるようにして2位でゴールしC決勝に進んだ。激しいレースを2本こなしした伊藤選手（早稲田大学）は、長めのクールダウンを行い、陸に上がってからさらにエルゴメーターでクールダウンを入念に行った。



1800m地点で壮絶なデッドヒートを繰り広げるエストニア（手前）、日本（真中）、ポルトガル（奥）

各クルー、レース終了後は、それぞれバスでホテルに戻りました。

19:00 全体ミーティング

本日もFISAから明日の荒天の影響を最小限にすべくスケジュール変更の連絡がWhat's Appという日本というラインに近いアプリで入りました。ホテルの朝食時間の前倒し等の交渉にも使えてとても重宝しています。

明日は全てのクルーでレースがあり、BM2x以外は全てラストレースになります。特にA決勝進出をかけたBM2xクルーや、A決勝で世界一をかけて戦うBLW4xクルーのレースは見所になりますので、ご声援よろしくお願い致します。